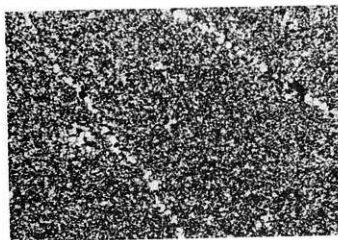


版 图



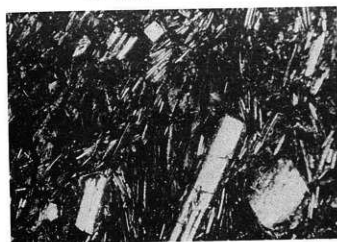
スレート (No.18)

×ca. 100



斜方輝石安山岩 (No.16)

×ca. 100



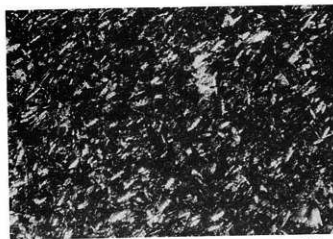
斜方輝石安山岩 (No.5)

×ca. 100



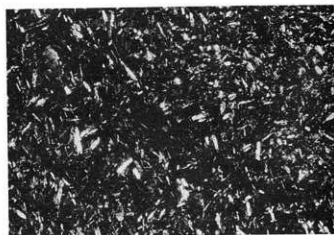
サヌカイトC (No.13)

×ca. 100



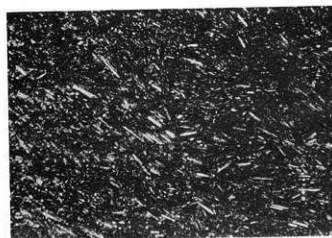
サヌカイトB (No.8)

×ca. 100



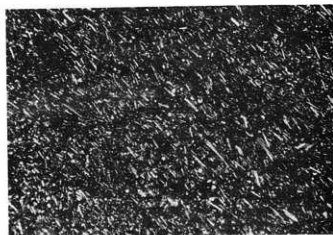
サヌカイトB (No.14)

×ca. 100



サヌカイトA (No.9)

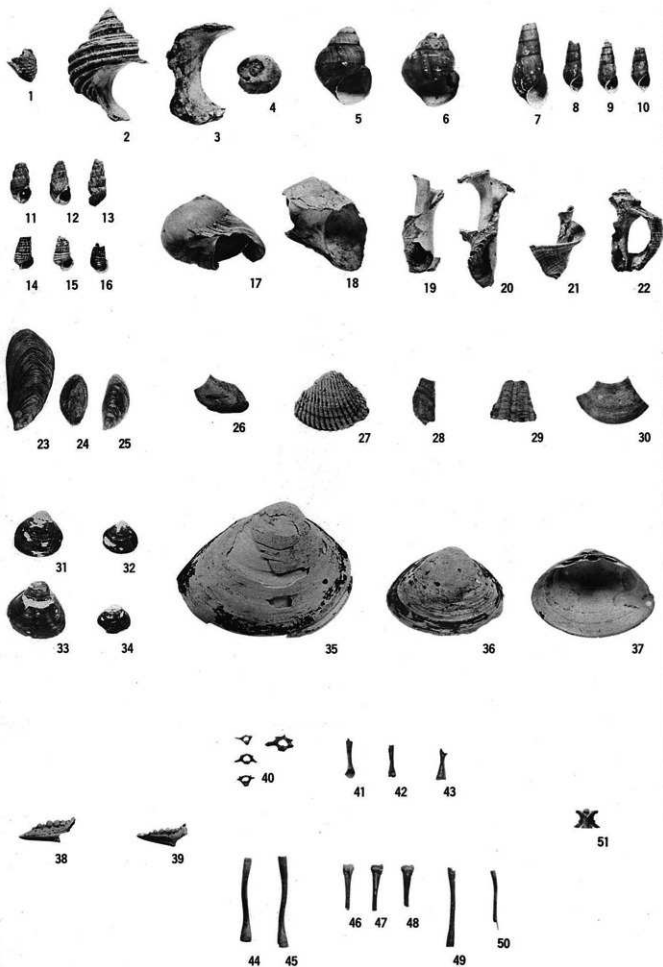
×ca. 100



サヌカイトA (No.7)

×ca. 100

PL. 2	1	貝類	イシダタミ	
	2~4		サザエ	
	5・6		オオタニシ	
	7・8		カワニナ	
	9・10		チリメンカワニナ	
	11~13		ウミニナ	
	14~16		イボウミニナ	
	17・18		ツメタガイ	
	19~22		アカニシ	
	23~25		巻貝ふた	
	26		コベルトフネガイ	
	27		サルボウガイ	
	28		イガイ	
	29		イタヤガイ	
	30		マルヒナガイ	
	31~34		ヤマトシジミ	
	35		ハマグリ	
	36・37		バカガイ	
	38	カニ類	モクズガニ	はさみ脚前節R. 内側
	39		モクズガニ	はさみ脚前節L. 外側
	40	カエル類	椎骨	
	41		上腕骨	
	42		上腕骨	
	43		尺骨	
	44・45		大腿骨	
	46~50		脛腓骨	
	51	ヘビ類	椎骨	

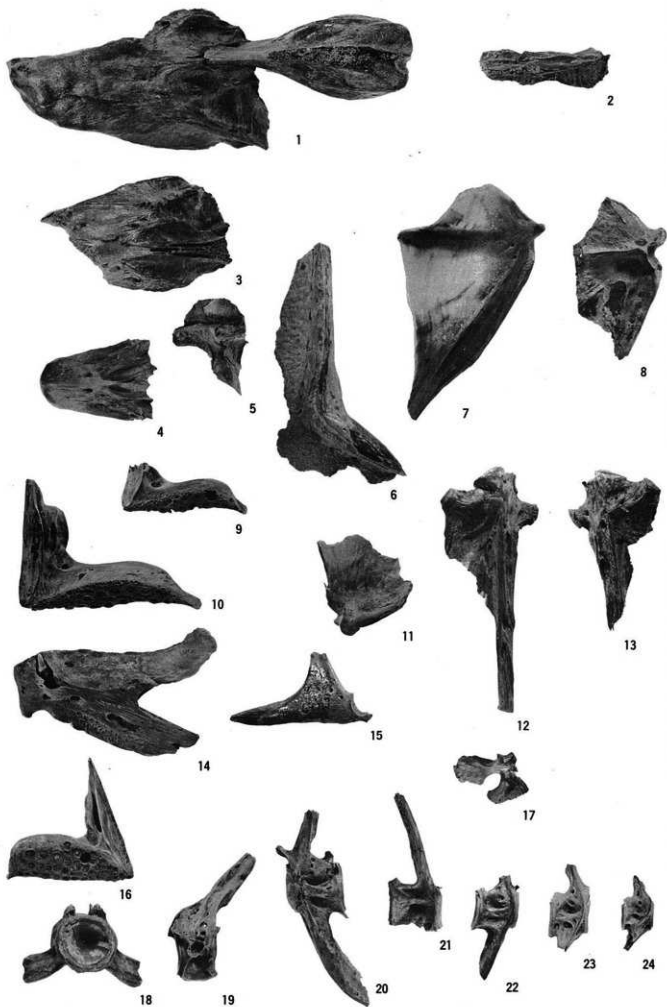


1	サメ類	椎骨
2	スズハモ	前上顎骨-篩骨と前頭骨
3	ハモ類	前上顎骨-篩骨-鋤骨板と前頭骨
4・5	ハモ類	腹椎上面
6	種不詳	右舌顎骨
7	スズキ	腹椎
8	ボラ類	尾椎骨
9	フナ	鰓蓋骨
10~17	タイ類	鱗
18	ヒラメ	右歯骨
19	ヒラメ	右鰓蓋骨
20	ヒラメ	鎖骨
21~29	ヒラメ	尾椎骨
30・31	ヒラメ	神経棘
32	フグ類	頭蓋
33	フグ類	左下顎歯骨
34	フグ類	右上顎歯骨
35	フグ類	右上顎歯骨
36	フグ類	左舌頭骨
37・38	フグ類	左鰓蓋骨と右同
39	フグ類	左前鰓蓋骨
40	フグ類	尾椎骨

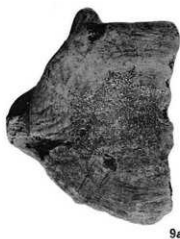


PL. 4	1	前頭骨と上後頭骨
	2	副楔骨
	3・4	前頭骨
	5	上後頭骨
	6	右前鰓蓋骨
	7・8	右鰓蓋骨外側と左内側
	9・10	右前上顎骨
	11	左方骨
	12・13	左舌顎骨と右同
	14	左歯骨
	15	左関節骨
	16	左前上顎骨
	17	左肩甲骨
	18~20・22~24	腹椎骨
	21	尾椎骨

(16のみクロダイ、他はマダイ)



PL. 5	1	オオハム	左上腕骨
	2・3	コウノトリ or ツル目	基節・中節骨
	4a・b	フクロウ科	左脛骨 (a:側面, b:前面)
	5	カラス類	右上腕骨
	6	カラス類	右尺骨
	7	イヌ	左大腿骨
	8	イヌ	左上顎切歯
	9	イルカ類	椎体
	10	鯨骨片	



PL. 6 1 a~c

頭蓋

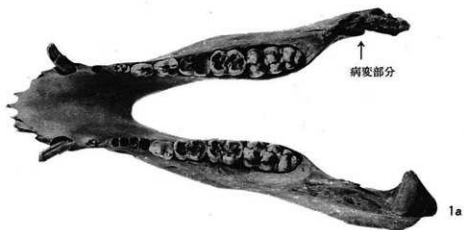
(a : 頭蓋底)
b : 側面)
c : 上面)

- | | |
|----|----------|
| 2 | 側頭部 (幼体) |
| 3 | 環椎 |
| 4 | 軸椎 |
| 5 | 頸椎 |
| 6 | 頸椎 |
| 7 | 右肩甲骨 |
| 8 | 右上腕骨 |
| 9 | 右橈骨 |
| 10 | 左大腿骨 |
| 11 | 左脛骨 |
| 12 | 左踵骨 |
| 13 | 右中手骨 |
| 14 | 基節骨 |



PL. 7	1a-b	B-0557 MA58 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	下顎骨 成獣 雄 (a:咬面) (b:側面)	下顎枝外側ほぼ中央に水平に走る細擦痕が明瞭に残る。右M ₁ の咬耗が左M ₁ とくらべ著しく進む特異な例である。写真では見られないが、右側の下顎枝に著しい病変が見られ、おそらく関節突起はほとんど無かったのではないかとと思われる。
	2a-b	B-0392 MB58 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左脳頭蓋 成獣 (a:内面) (b:外面)	眼窩前縁から後頭鱗までをほぼ完存する。頭頂骨中央正中線に沿って真半分に分られたもの。→印部分に頭頂と垂直に交わる平滑な切断面がみられる。前後部の端に咬痕がつく。
	3	B-0472 MB59 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上顎骨 成獣 雄	M ¹ 位置で頭蓋を切断したものの残片であろう。P ¹⁻²⁻³ が破損。上顎骨上縁を吻端を切りとるような形で細かくたたき割っている。
4a-b	B-0529 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	下顎連合部 成獣 雄 (a:上面) (b:下面)	外側面は、犬歯の歯槽に沿うようにして頬側から切り込みを加え、一方、舌側からも犬歯に沿って打割を行っている(→印)。犬歯を丁寧に抜去するための加工であったろう。	

MA58



MB58

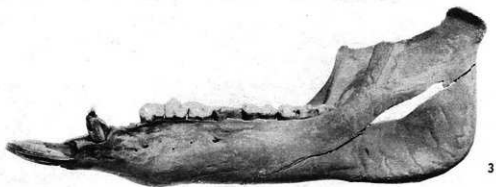
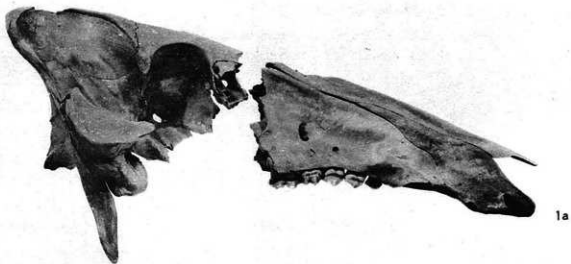


MB59貝塚内



PL. 8	1a-b	B-0510	頭蓋	おそらく同一個体のものが埋存していたと思われるが脳頭蓋部の破損が著しいので、写真のように分れてしまったものであろう。脳頭蓋を縦に割る加工と、後頭部を左頭頂から右後頭鱗にかけて斜めに切断する加工とによって脳髓摘出を行っている(→印)。上顎骨はほぼ完存するが、右側はM ¹ 後縁位置で、前頭骨に垂直に切断され、M ² M ³ 位置の上顎骨が失なわれている。上顎犬歯は左右とも抜去。切歯は脱落。出土状況が明らかでないのが惜しまれる。
		MB59	成獣 雄	
		溝(SF 075-076)	(a:側面)	
		黒色粘質土層	(b:側面)	
	2	B-0517	右上顎骨	前頭骨のほぼ中央、眼窩上孔付近で上方から頭部を前後に分断し、さらに左右に縦に割ったもの。涙骨と上顎骨部分がほぼ完存。この標本の裏側には、切断痕のこの口蓋骨が残存する。おそらく解体加工の順序としては、口蓋部を上にして縦に真半分にした後、前にのべた前頭部分で前後に割ったものだと考える。
		MB59	成獣 雄	
		溝(SF 075-076)		
		黒色粘質土層		
	3	B-0472 ?	下顎骨	下顎体高の著しく低い小型の骨である。現生の
		MB59	成獣 雌	雌とほとんど変わらない。
		溝(SF 075-076)		下顎枝には咬筋を切断する際の切痕がみられず鳥口突起部を破壊することで頭蓋から切り離したのであろうか。小型で華奢な下顎骨の場合が多くこの方法をとったようである。
		黄混黒色粘質土層		

MB59



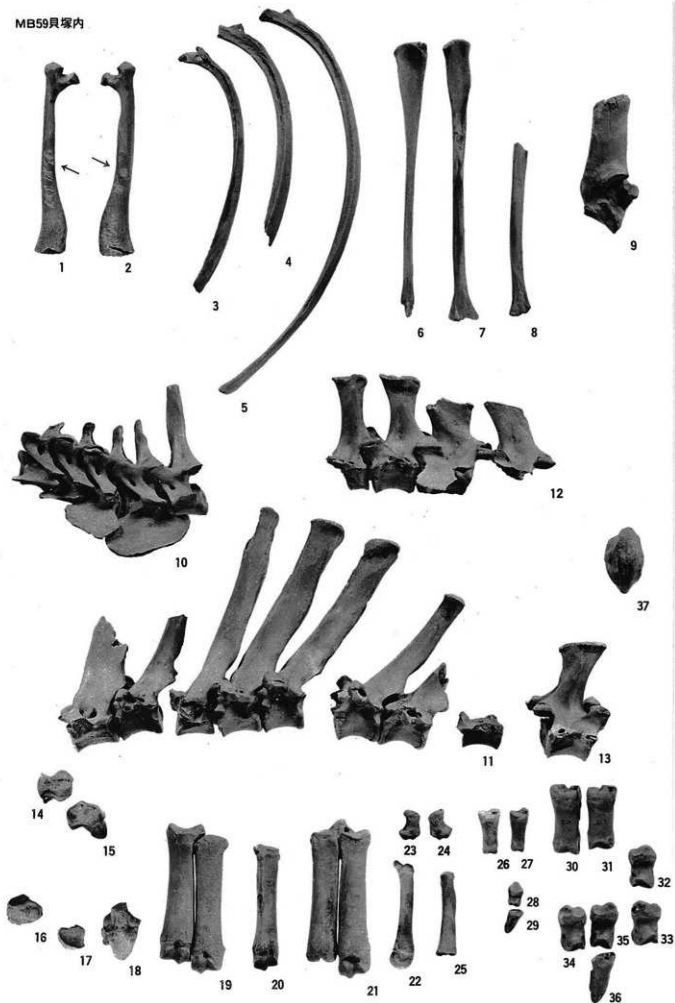
PL. 9	1・2	B-0870 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	右肩甲骨	2は棘結節の中央部をたたき切り(→印)、それ以下の肩甲骨軟骨部にかけて欠損するもので、鳥口突起部が化石化していないので1よりはやや若い個体のものであろう。
	3・4	B-0870 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	右・左寛骨	3・4は同一個体である。割れ口の新旧はやや不鮮明であるが、おそらく腸骨体中央部に内側から斧状の鈍器の刃痕が残っている(→印)ことから判断してそのようにして切断された割れ口とみてよいと思う。また、寛骨臼板から坐骨板にのびる細切痕がみられる(写真下部→印)。
	5	B-0510 貝塚内	左橈骨	完存するもの。全長:145mm。下端の化石化は不完全であるので2~3才令程度のもの。上端前面に幅13mmぐらいにわたり横位に幾条もの細切痕がつく(→印)。上腕骨との分離のため靭帯を切断した際ついたものであろう。
6	B-0510	右・左大腸骨 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	右・左大腸骨	左右同一個体のものであろう。上下両端がまだ化石化していない。中間部を失うのは、人為的に打割され亀裂がはいっていたためであろう。上部内側に6・7両標本とも細擦痕をもつ(→印)。頸側広筋切除のためと思われる。6の上下は接合できる。7bは7cから脱れたもの。
	7a~c			
8・9	B-0506 MB59 溝(SF 075-076)	右・左脛骨	左右同一個体のももの。下端部のみ化石化がみられる。左側は下端部前面が打割されて欠損する。	

MB59



PL. 10	1-2	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	第1肋骨	左右同一個体のもの。両標本とも前面中～下部に鋭い切痕が真横またはやや斜傾してつく(→印部)。第1肋骨前縁に起き頸椎の腹部を占める第一肋骨斜角筋を切断する際にこうした切痕がつくのであろう。頸部の切り離しを容易にするか、或は頸部の肉を切りとるための解体工程にあたる。
	3-4-5	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	左側肋骨	同一個体のもの。左より順に第4・第6・第8肋骨左側。
	6-7-8	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	腓骨	6:左側 7・8:右側 8は上端部を欠損。幼獣。 6・7は同一個体のもの。
	9	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	左側踵骨	完存する標本。上端部関節は脱落。上記の腓骨とは別個体で大きい。
	10	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	第3-7頸椎骨	同一個体の連続する標本。 第6頸椎の左右の前関節突起上面に切痕がみられた。
	11	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	第2・3・4・5・6・8・9 胸椎骨	同一個体のもの。第5胸椎の長い棘突起部の下部両側に僅かに切痕がみられる。また第2胸椎の棘突起が折れるのも解体時のことかもしれない。
	12	B-0506 MB59 溝(SF 075-076) 貝塚内	第12・13胸椎 第2・3腰椎骨	同一個体のもの。第12～14胸椎まで揃うもの(ただし写真では12・13胸椎のみ)。
	13	B-0506	第13胸椎骨	
	14)	B-0870	左桡側手根骨	前・側面
	15)	MB59 溝(SF 075-076) 黑色粘質土層 (貝塚内)	左第4手根骨	前面
	16)	B-0511	左第3手根骨	前面
	17)	MB59	右第3足根骨	上面
	18)		左中心足根骨	後面
	19)	B-0870	左第3中手骨	
	20)	MB59	右第4中手骨	
	21)	溝(SF 075-076) 黑色粘質土層	右第3中手骨	
	22	B-0510	左第2中足骨	
	23	B-0511	第1足根骨	
	24	B-0870	第1足根骨	
	25	B-0511	左第2中足骨	
	26-27	B-0870	第2a5基節骨	
	28	B-0511	第2a5中節骨	
	29	B-0511	第2a5末節骨	
	30-31	B-0509	第3a4基節骨	
	32~35	B-0870	第3a4中節骨	
	36	B-0870	第3a5末節骨	
	37	B-0506	左膝蓋骨	

MB59貝塚内

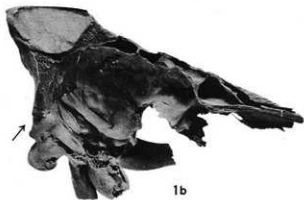


PL. 11	1a·b	B-0486 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左脳頭蓋 (a:内面) (b:外面)	骨質がうすく華奢な頭蓋であるが、大きさや冠状縫合の骨化などからみて若獣のものとみられない。成獣の髄であろうか。後頭溝部分は半分にならず完存するので、頭部を縦に真半分に打割るのには頭頂からではなく頭蓋底の側から打撃を加えて真半分にしたのではないかと推測させる標本である。後頭顆が中央から左右に割れているのはそれを裏づけるように思う(→印)。また、この標本は後頭顆底部に切痕がみられる。
	2	B-0536 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	前頭・頭頂骨	頭頂にみられる割れた孔は、人為的な破壊によるものかもしれない。しかしその他は縫合部分から縫合面の褶曲をよく残して脱れているので、埋存後の脱落であろう。現生標本と大きさを比較して約M ₁ 萌出完了程度の幼獣と推定する。
	3	B-0491 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右下顎骨 幼獣	最も幼年個体の段階に属する下顎骨の一つ。M ₁ 位置の歯槽上面が切れ、僅かにM ₁ が見えている。m ₂ は欠萌出程度。上記の頭蓋とは別個体でこちらの方が小さい。
	4	B-0485 MC59 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右肩甲骨	小さな肩甲骨であるが、同時に出土している桡骨・尺骨・大腿骨(5・6・7)よりは大きい個体のもの。関節端の骨化は未だみられず。
	5	B-1198	右桡骨	これらは同一個体のものらしい。大腿骨のみ上
	6	MC59	左尺骨	端前面内側より横位に走る幅上下1cmにわたり
	7	溝(SF 075-076) 黒色砂質土層	左大腿骨	細かい切痕がつく。4の肩甲骨よりは小さい。
	8	B-1202 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左肩甲骨	完存する標本。肩甲骨頸部上面に横位に走る切痕がみられる(→印)。強大な三角筋を肩甲骨頸部に当るこのあたりで切断し上腕骨以下前肢を切り離す解体工程を示すものであろう。B-0534の桡骨と同大?
	9	B-0486	左桡骨	桡骨と尺骨は同一個体らしい。桡骨上端前面に
	10	MC59	左尺骨	切痕がみとめられる(→印)。脛骨は上端関節部を
	11	溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右脛骨	除いて完存するが、骨体の丁度中央に打撃によって生じた斜骨折がある。

MC59



1a



1b



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

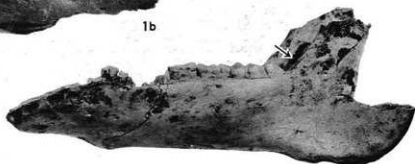
PL. 12	1a-b	B-1203	下顎骨	右側連合部犬歯の位置で顎骨が左右に分かれて
		MC59?	成獣 雌	いるが、付着可能な標本。埋存時の土圧によるものと思われる。
			(a:側面)	雌の中では大型に属するもので、年令もM ₃ が
			(b:側面)	—C段階で成獣。ただし—C段階の中でも小窩独立が9/10まで進行したものである。
	2	B-1203	下顎骨	上記1の下顎よりも小さな個体。歯冠長・下顎
		MC59	成獣 雌	骨体高ともに小型。年令段階はM ₃ が—Cであるが、1よりはやや咬耗が弱い。下顎枝部の左外側前縁に鋭い切痕がみられる (→印)。
	3)	B-0519	左上腕骨	3は下端が骨化が完了し、上端が不完全の段階
		MCZ	右尺骨	の個体。下端の外側～後面にかけて鋭い切痕がつ
		溝(SF 075-076)	左尺骨	く。上腕筋の切断の際つくものだろう。
				4はかなり大きい個体の尺骨。下端部は打割による欠損と思われる (→印)。5は4より小さな尺骨で完存し、3と同一個体。
	6)	B-0519	右距骨	3標本とも同一個体であろう。加工痕はみとめ
		MCZ	左距骨	られなかった。
		溝(SF 075-076)	右踵骨	



1a



1b



2



3



4



5



6



7



8

PL. 13	1	B-1198 MC59 腐混黒色粘質土層	右上腕骨	完存する標本。下端部は骨化がほぼ完了するが、上端は骨化の不完全な段階のもの。下端内側に切痕をもつ(→印)。黒色粘土層からの出土とあるがPL. 7の3・5と同一個体であるようである。
	2a・b	B-1199-0486 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右下腕骨 成獣 (a: 前面) (b: 前面)	上端部も骨化がすすむ3才令程度の個体。かなり厚い骨質である。先ず内側から重い鈍器様のもの5~6回たたいて打ち割ろうとしたが果たせず(→印)、次に外側の中央部から打ち割っている。
	3	B-1074 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左橈骨	上端から1/2位の部分からたたき切られたもの。その部分の骨片は失われている。上下端がすでに骨化している段階のもので、2と同一個体である。前肢の大概の肉を切り分けほぼ骨のみとなつてから更に骨髄食のために上腕骨と橈骨のそれぞれの中間部をたたいて打割ったものであり、この関節部は相互に固着したまま廃棄されたものであろう。さらに切断されたもう片方の橈骨の下端も同一地点に出土したことは、その骨髄食から廃棄までが、かなり短時間のうちにこなされたことを示している。
	4	B-1074 MC59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右腓骨	PL. 6-5・6・7よりもやや大きい個体。
	5a~c	B-0533 MD59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	下顎骨 (a: 側面) (b: 咬面) (c: 下面)	右下顎枝外側に明瞭な解体痕がみられる。その後でさらに下顎角から下顎枝底部にかけて割っている。下顎枝が大部分欠損するのはその際欠損したものであろう。犬歯のうしろで丁度連合部と後部とを分断するように左右同時にたたいたような凹みがみられる。下顎を完全に分離するためのものかもしれない。
	6	B-0563 MD59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左脛骨	上下端の脱れる幼獣のもの。PL. 6-9の橈骨と同一位の大きさであるがそれよりやや若い。下端前面~内側の角に切痕が少しみられる。

MC59



MD59



PL. 14	1	B-0533 MD60 溝(SF 075-076) 炭混黒色粘質土層	右下顎骨 成獣 雄	P ₄ の前縁から先を欠損する。頬側の犬歯歯槽に沿って大きく打ち欠いていたらしい。下顎枝部の損傷は新しい。下顎枝部に切痕はみられなかった。
	2	B-0618 MD60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左前頭骨	3の下顎骨とほぼ同大となる個体のもの。擦痕が頭頂、縫合線にそって何本も走っている。
	3a・b	B-0516 MD60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	下顎骨 幼獣 (a:咬面 b:側面)	M ₁ が萌出途次の幼獣。左右の下顎枝下部外側に切痕がみられ烏口突起先端が欠損する他は、あまり破損はみられない。
	4 5	B-0567 MD60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右脛骨	5は上下端が脱れる他は完存する。4は、5よりわずかに大きく、下端は骨化が進む。上下ともに、かなり著しい咬痕がつく。とくに下端は径5mm程の犬歯による孔があげられ(→印)、犬によるものであることはまちがいないだろう。
	6	B-0602 MD60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上腕骨 幼獣	本遺跡出土中最も小さい個体に属する。新生児位。上端は欠損する。PL. 9-8の下顎骨より小さく異個体。
	7	B-0537 ME60 溝(SF 075-076) 炭混黒色粘質土層	前頭・頭頂骨	M ¹ が%萌出程度の幼獣の現生標本より約1割小。骨質が薄いために破損がみられるが、ほとんど縫合線から脱れたもので人為的加工はみられない。
	8	B-0513 ME60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	前頭・頭頂骨	6より小さいが、8の下顎骨よりはかなり大きくなる。6と同様、人為的破損はみられないが前頭骨の割れ口の一部は縫合線にそって脱れたものではなくかなり古く、磨滅している。
	9	B-0507 ME60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右下顎骨	出土した顎骨中最も小さいものであるが、6の新生児骨に比べるにはかなり大きく、7・8の頭蓋よりは小さい。M ₁ がごくわずか歯槽を切ってみえている。
	10	B-0513 ME60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	環 椎	完存する。
	11	B-0513 ME60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左桡骨と 尺骨	同一個体のもの。固着したまま埋存していたのであろう。
	12	B-0513 ME60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右上腕骨	PL. 6の5~7と同一個体のものらしい。上下端は脱。

MD60



1



2



3a



4



5



6



3b

ME60



10



11



12



7



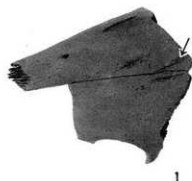
8



9

PL. 15	1	B-0869 ME61 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	前頭骨	頭蓋の正中線に沿って頭頂にたたき傷が残る。 また右眼窩の上にも傷がある(→印)。 骨の大きさを比較すると、M ³ が一B段階の咬耗がみられる年令の個体である。
	2	B-0869 ME61 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左下顎骨 成獣 雄	下顎枝基部外側につく切痕は、鳥口突起の下にV字状の断面をみせるまでに深く切り込んでいる(→印)。また外側の犬歯歯槽に沿って下顎体を削るようにして切っている刃傷は平滑面をつくる(下の→印)。
	3	B-0869	右踵骨	4は骨頭部が脱れている。3にくらべ小さい。
	4	ME61 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左踵骨	
	5	B-0661 MF61 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右下顎骨	下顎枝は鳥口突起部を欠くのみで切痕はみられない。下顎体の左右を丁度連合部のI ₁ で分けている。M ₁ は一B段階。M ₂ は顎骨中に入り、その位置の歯槽が一部切れている。
	6	B-0905 MG62 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	頭蓋 成獣 雄	土圧により、前頭骨から鼻骨にかけて歪んでいる。その他頭静脈突起、右側頰骨、上顎骨が欠損するがこれも人為的なものではなさそうである。本来はほぼ完存する頭蓋の状態で廃棄されたのであろう。ただし犬歯は抜去したらしいこと、前頭骨の正中線にそって細い切痕がうすくみえることと後頭部に著しい切痕がみられることは解体時のものであろう。後者は頭部と頸部を切断する際付着した切痕である。年令段階はM ³ の前臼部分の丘状歯の頭部にエナメル質咬耗がみられる段階のもの。
	7a・b	B-0905 0686 MG 62 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右上顎骨 右前頭骨 成獣 雄	写真では上記のものと同じようになっているが、歯の咬耗程度はこちらの方がやや進む。ただし大きさはやや小さい。犬歯抜去の他は人為的な加工はみられない。 前頭骨は頭頂部分で縦に半分に割っている。その他は縫合部分から自然に脱れたもの。 犬歯 歯冠長：15mm、幅：11.2mm
	8・9	B-0686 MG62 溝(SF 075-076)	左右下顎骨 成獣 雄	M ₃ が一B段階のもので左右同一個体。さらに、6の頭蓋の歯の咬み合わせ具合も一致するのでこれともおそらく同一個体であろう。下顎体は左がM ₁ の真中付近(→印)、右がP ₄ 付近で打割され(→印)、先端が失われている。犬歯抜去と骨髄食のためであろう。下顎枝部の破損は解体時の人為的なものである。

ME61



1



2

MF61



3



4



5

MG62



6



7a



7b



8



9

PL. 16	1)	B-0906-681	寛骨	1・2ともほぼ完存するものである。腸骨翼の内面に仙骨前縁が結合したままの状態である。3は左側のみ残るもので仙骨も脱れているが、自然に左右が分離したのであろう。ただし坐骨板下面には擦痕がみられる(→印)。
	2)	溝(SF 075-076)		
	3)	腐混黒色粘質土層		
	4)	B-0906	左肩甲骨	4は特別な加工はみとめられない。骨質のうす
	5)	MG62	右上腕骨	い下縁部が欠損。5は上端後面に横位の切痕。6
	6)	溝(SF 075-076)	右橈骨	は上端前面にやはり同様の切痕が付着する(→印)。
		黒色粘質土層		4～6は同一個体で1～2才程度の年令。
	7)	B-0686	右尺骨	同一個体。4～6の個体より大だがやはり1～
	8)	MG62	尺橈骨	2才位のもの。
		溝(SF 075-076)		
		腐混黒色粘質土層		
	9)	B-0681	左第6肋骨	かなり小さな同一個体のもの。尺骨全長12cmぐ
	10)	MG62	左第7肋骨	らいのものである。加工痕はみられなかった。
	11)	溝(SF 075-076)	左第8肋骨	
	12)	腐混黒色粘質土層	左第9肋骨	



PL. 17	1	B-0799 MH62 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左肩甲骨	
	2 a·b	B-0698 MH63 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左右下顎 (a:上面) (b:側面)	M ₁ がBに属するもので、下顎枝基部切痕が外側に明瞭(→印)。
	3	B-0689 MH63 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	前歯・顎骨	上記の下顎骨より大きな個体。
	4	MH63 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左大腿骨	遠位端から中間部を残すもの。後面に打撃点(→印)がみえ打割による斜骨折である。下端は骨化が不完全。
	5	B-0582 MI62 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右土顎犬歯	非常に大きな犬歯が単独で出土している。 歯冠長:22mm、幅:18mm
	6	B-0784	下顎骨	もともと左右結合した形で埋存していたものである。下顎角部の破壊は左側が著しく、右側は切痕が顕著。また連合部分は削られ平滑にされた刃痕がみられる。M ₂ は下顎体中にあり歯槽がきれてM ₃ の一部がみえている。
	7	MI64 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層		
	8	B-0784	右上腕骨	8~10は同一個体。上腕骨は上下端が割れて欠損。8・9は上下端が脱れる他は完存。
	9	MI64	右尺骨	
	10	溝(SF 075-076)	左脛骨	11はより大きな個体。
	11	腐混黒色粘質土層	右踵骨	
	12	B-0785	左上腕骨	13・14・16は同一個体。12はそれよりやや大。
	13	MI64	右上腕骨	13は下端前面に切痕がみえる。寛骨臼も腸骨との関節面で上半部が脱れている。17と同一個体程度。
	14	溝(SF 075-076)	左尺骨	
	15	腐混黒色粘質土層	左寛骨臼	
	17		左大腿骨	
	16	B-0594 MI64 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左大腿骨	

MH
62



1

MH
63



2a



2b



3



4

MI
62



5



6

MI
64



8



9



10



11



7



12



13



14



15



16



17

PL. 18	1a~c	B-0670 MH63 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上顎骨 と頬骨 成獣 雄 (a:側面 b:頭蓋底面 c:上面)	口蓋部分は打割の割れ口がみえるので頭蓋底部から頭蓋を真半分にしたものだろう。その他は縫合面より脱れるので埋存後のことと思われる。M ¹ がD段階のもの。
	2a~c	B-0670 MH63 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右下顎骨 成獣 雄 (a:外側面 b:内側面 c:下面)	P ₁₋₄ 部分の断片。頬側は犬歯歯槽に沿って平滑な刃痕をのこして削っている(→印)。舌側は細くたたいて割っている。
	3a~c	B-0670 MH63 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上腕骨 (a:外側面 b:前面 c:下面)	下端は骨化し、上端が化骨化しないもの。上端後面、下端後面外側、下端内側~前面はそれぞれ切痕がみられた(→印)。
	4	B-0917 IW69 溝(SF 079) 暗褐色粘土層	右脛骨	骨端は骨化している個体。下端部の凹凸は、咬痕による(→印)。

MH63



IW69



PL. 19	1	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右下顎骨 成獣 雄	下顎枝とP ₃ 以前が打割により失なわれている。 M ₃ は%が歯槽上面を切って見えている。
	2	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上顎骨	2・3は左側のみ残る同一個体のもの。M ₁ は下顎体の中にあるが、歯槽中からやや見える程度で未萌出。下顎は左右そろっていたものらしい。顎蓋も当初はほぼ完存するものではなかったか。右側の切歯骨も同一個体の大きさである。
	3		左下顎骨	
	4		右切歯骨	
	5	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右切歯骨	乳切歯をもつが4よりはかなり大きい個体である。
	6	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右上腕骨	6～10は同一個体。6は下端は完全に骨化していない。また、内側と前面に切傷がある(→印)。その他は加工痕がみとめられない。
	7		右橈骨	
	8		右尺骨	
	9		右大腿骨	
	10		左大腿骨	
	11	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左寛骨臼部 ~坐骨	上記より大きな個体。加工痕なし。
	12	B-0749 MK64 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左尺骨	11よりやや大きく張る。外側に顕著なたたき傷がみられる(→印)。
	13	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右第8肋骨	非常に小さい個体。特別な加工痕なし。
	14		右第9肋骨	
	15		右第10肋骨	
	16	B-0763 MK65 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上腕骨	17・18は同一個体。脛骨内側に切痕。 寛骨はそれよりやや大。坐骨体に僅かに切痕。 上腕骨はさらに大きくなる個体。前面内側に切り込みが僅かにみられる(→印)。
	17		左尺骨	
	18		左脛骨	
	19		左寛骨	

MK65



1



2



4



3



5



6



7



8



9



10



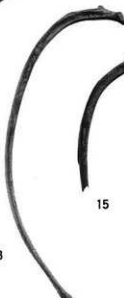
11



12



13



14



15



16



17



18

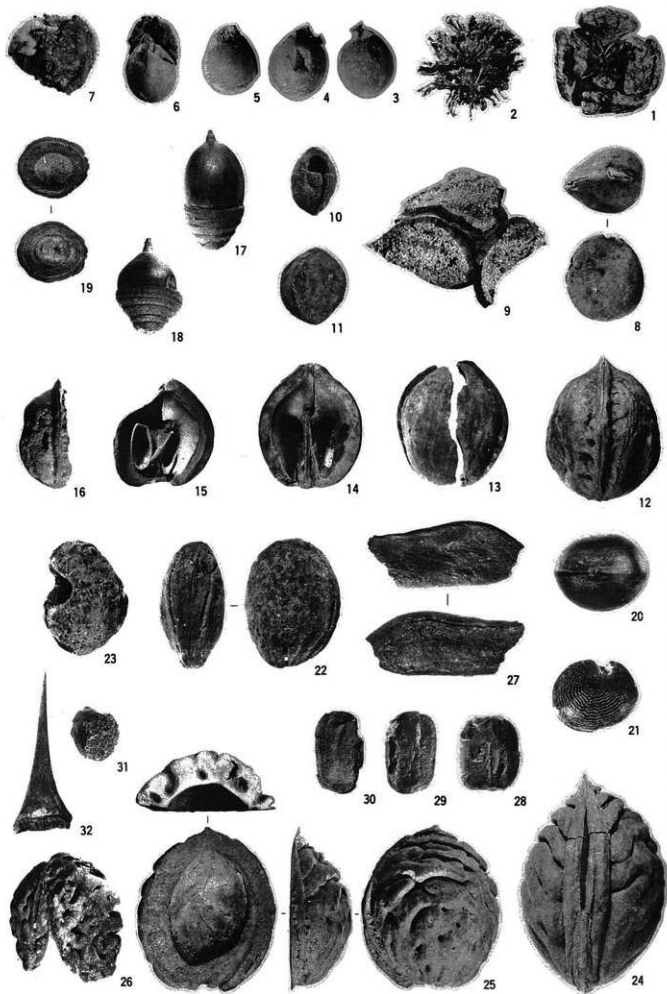


19

PL. 20	1	B-0385 MA58 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	軸椎前半部	椎体をほぼ二分するようにたたいて打ち割っている。頸部と頭部の分離のためである。また外側関節面の底面側にV字状の切り込みがある。
	2	B-0869 ME61 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	軸椎	椎体側面の真中よりやや後部に、たたいてできたゆるやかに弯曲する凹みがある(→印)。これが更にすすむと、1のように切断された形になるのであろう。
	3	B-1036 LX56 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	環椎	上半部が、斜め前方から後方にかけてたたいて破壊されている。やはり頸部切断の解体痕としてみるべきものであろう。
	4	B-1069 MB59 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	右下顎骨	P ₂ ~M ₃ まで残植するほぼ完存する下顎骨。
	5	B-1032 LY57 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	右上腕骨	下端部直上位置で打割したのも。
	6	B-0531 MD60 溝(SF 075-076) 黒色粘質土層	左上腕骨	中間部を打割した下半部残片。 下端前面には切痕がつく。
	7	B-0749	右上腕骨	いずれも上端と下端を欠損する中間部。
	8	MK64	右上腕骨	7は、上下端ともに咬痕をもつ(→印)。8は7
	9	溝(SF 075-076)	左上腕骨	より小さく下端は関節面の脱れた形跡をのこす。9は上下に咬痕がみられ(→印)、大きさは7・9の中間にある。
	10	B-0391 MB58 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左橈骨	ほぼ完存する。
	11	B-0471 MB59 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	寛骨	寛骨臼から下半をのこすもの。左右の寛骨臼と、下端の坐骨結節部分が打割によって欠損しているものらしい。
	12	B-1190 ML56 溝(SF 075-076) 腐混黒色粘質土層	左脛骨	打割によって生じた下半部分。関節は骨化終了。



PL. 21	1	ヒノキ	球果 ×2.5 (IKB WK 452)		
	2	ヒノキ	蝕磨された球果 ×2.5 (YoC WK 087)		
	3	エノキ	種子(外側は溶けてない) ×5.0 (IKB WK 220)		
	4	エノキ	種子(外側は溶けてない) ×5.0 (IKB WK 220)		
	5	エノキ	種子(外側は溶けてない) ×5.0 (IKB WK 220)		
	6	エノキ	蝕磨された果実 ×5.0 (IKB WK 220)		
	7	エノキ	蝕磨された果実 ×5.0 (IKB WK 220)		
	8	ムクノキ	(上)上面 (下)側面(上部に臍点あり) ×3.0 (YoC WK 089)		
	9	ムクノキ	種皮片(乾燥して割れ、反曲する) 3.0 (IKB WK 414)		
	10	ヤマモモ	×3.0 (YoC WK 046)		
	11	ヤマモモ	×3.0 (YoC WK 046)		
	12	オニグルミ	縫線側より ×1.0 (YoC WK 021)		
	13	オニグルミ	(不規則に割れる) ×1.0 (YoC WK 017)		
	14	オニグルミ	(先端がなくなり、基部に割れ目あり) ×1.0 (YoC WK 090)		
	15	オニグルミ	(不規則に割れる) ×1.0 (IKB WK 435)		
	16	オニグルミ	側面(縫線を外れて割れる) ×1.0 (YoC WK 032)		
	17	イチイガシ	×1.5 (YoC WK 083)		
	18	イチイガシ	やや幼果 ×1.5 (YoC WK 083)		
	19	イチイガシ	殻斗 (上)上面 (下)下面 (YoC WK 051)		
	20	クスノキ	種子 ×3.5 (YoC WK 046)		
	21	マルミノヤマゴボウ	×7.0 (IKB WK 220)		
	22	スモモ	(左)縫線側より ×2.0 (YoC WK 099)		
	23	スモモ	(鋳られたもの) ×2.0 (YoC WK 046)		
	24	モモ	縫線側より ×2.0 (IKB WK 419)		
	25	モモ	(右)表面 (中)側面 (左)裏面 (左上)切断面 ×2.0 (IKB WK 446)		
	26	モモ	(こげて、割れたもの) ×2.0 (YoC WK 014)		
	27	マメ科	莢(上)表面 (下)裏面 ×1.5 (YoC WK 007)		
	28	アズキ	×3.5 (IKB WK 197)		
	29	アズキ	×3.5 (IKB WK 197)		
	30	アズキ	×3.5 (IKB WK 197)		
	31	サンショウ	外皮つき ×4.0 (IKB WK 417)		
	32	サンショウ	刺 ×4.0 (IKB WK 451)		



PL. 22	33	トチノキ	(上)種子上面 (下右)果皮表面 (下左)果皮内面	×1.0	
			(YoC WK 072)		
	34	トチノキ	幼果 (上)上面 (下)側面(翼のある型)	×2.0	(YoC WK 068)
	35	ムクロジ	種子 (上)上面 (下)側面	×2.0	(YoC WK 083)
	36	ムクロジ	種子	×2.0	(YoC WK 072)
	37	ムクロジ	果実上面(左側欠損)	×2.0	(YoC WK 083)
	38	ブドウ属	背面	×5.0	(IKB WK 220)
	39	ブドウ属	腹面	×5.0	(IKB WK 220)
	40	ブドウ属	断面	×5.0	(IKB WK 220)
	41	ツタ	吸盤根	×2.0	(IKB WK 462)
	42	ツバキ	種子(完熟のもの)	×2.0	(YoC WK 087)
	43	ツバキ	種子(おそらく不実のもの)	×2.0	(YoC WK 087)
	44	イイギリ	果実	×3.5	(IKB WK 099)
	45	エゴノキ		×3.0	(YoC WK 046)
	46	エゴノキ	(双核をなすもの)	×3.0	(YoC WK 046)
	47	エゴノキ	(蓄られたもの)	×3.0	(YoC WK 080)
	48	ハクウンボク	(上)上面	×3.0	(YoC WK 072)
	49	ナスビ属		×4.0	(IKB WK 461)
	50	マクワウリ	種子	×3.0	(IKB WK 461)
	51	ヒョウタン	種子	×3.0	(IKB WK 451)
	52	キカラスウリ属	種子	×3.0	(IKB WK 436)
	53	オナモミ	果胞	×3.0	(IKB WK 461)
	54	アシ	桿(木炭化している)	×3.0	(YoC WK 101)
	55	アシ	桿(木炭化している)	×3.0	(YoC WK 101)



36



35



34



33



37



44



41



40



39



38



43



42



47



46



45



49



48



53



52



50



51

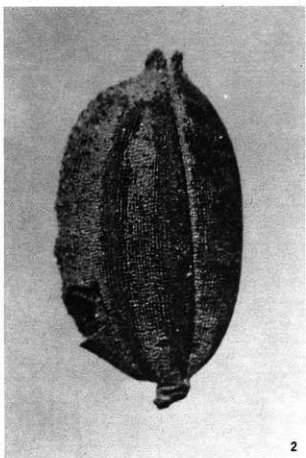


55



54

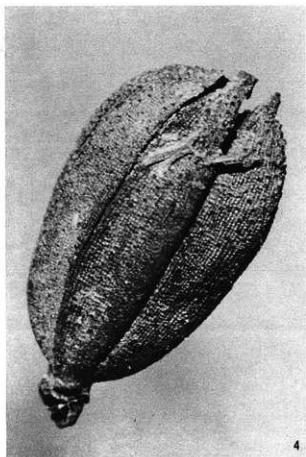




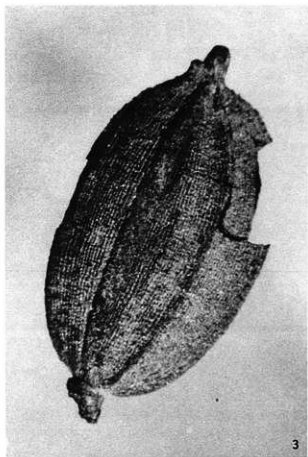
2



1



4

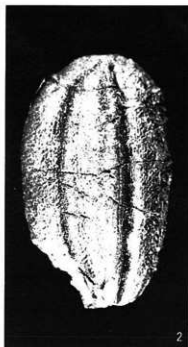


3

1 IKB WK 173-2 2 IKB WK 173-1 3 IKB WK 290
 4 IKB WK 181-3



3



2



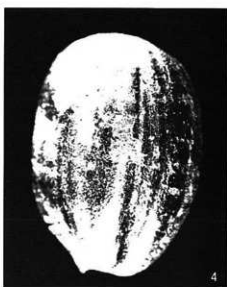
1



6



5



4



9

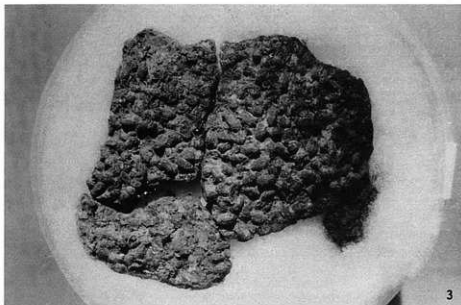


8

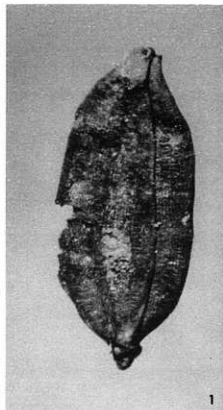


7

1 IKB WK 135-33 2 IKB WK 135-11 3 IKB WK 135-1 4 IKB WK 143-16 5 IKB WK 135-19
 6 IKB WK 135-3 7 IKB WK 143-8 8 IKB WK 143-1 9 IKB WK 143-9



3



1



4



2



5

1 IKB WK 212

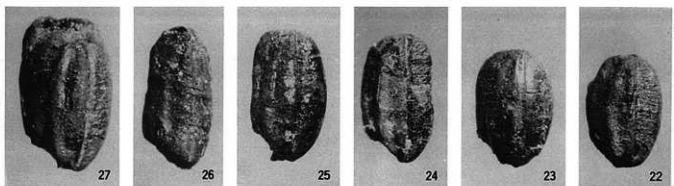
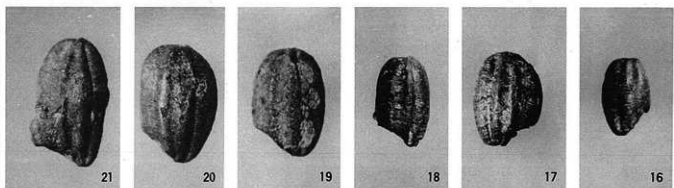
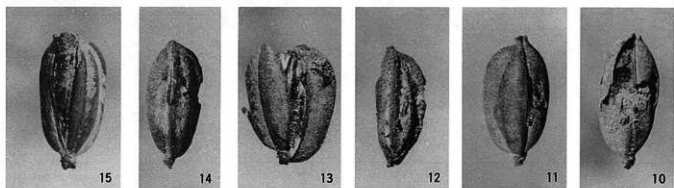
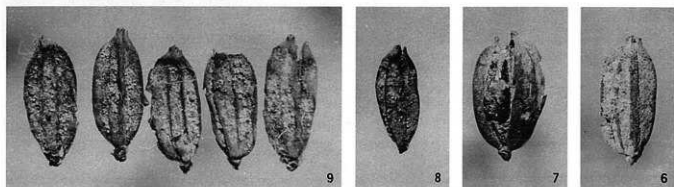
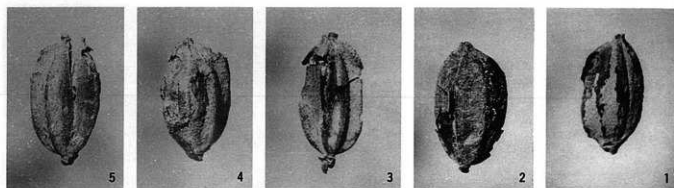
2 IKB WK 219

3 IKB WK 277

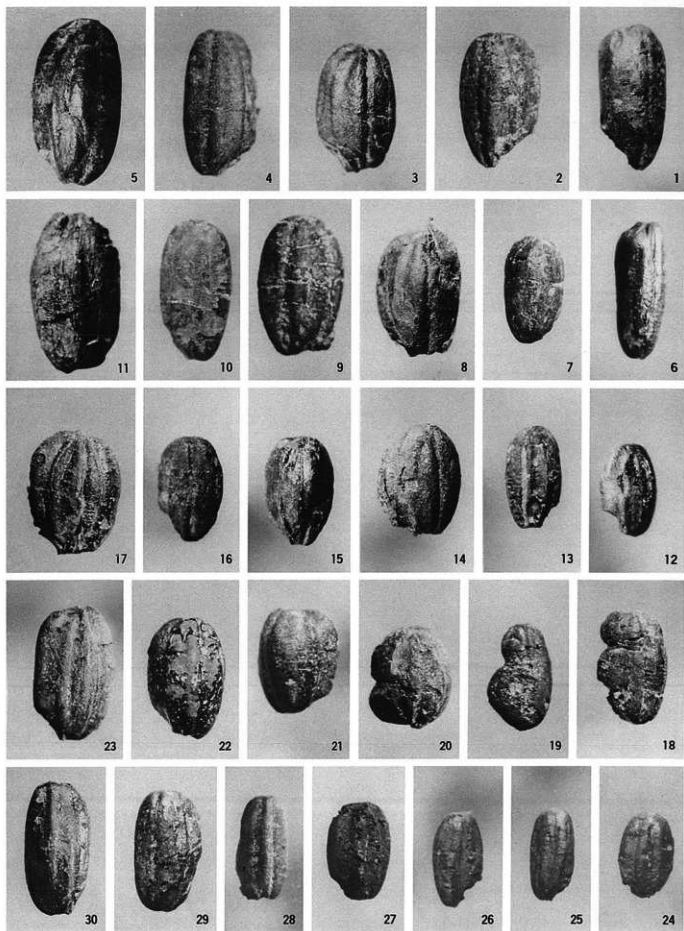
4 IKB WK 277(拡大)

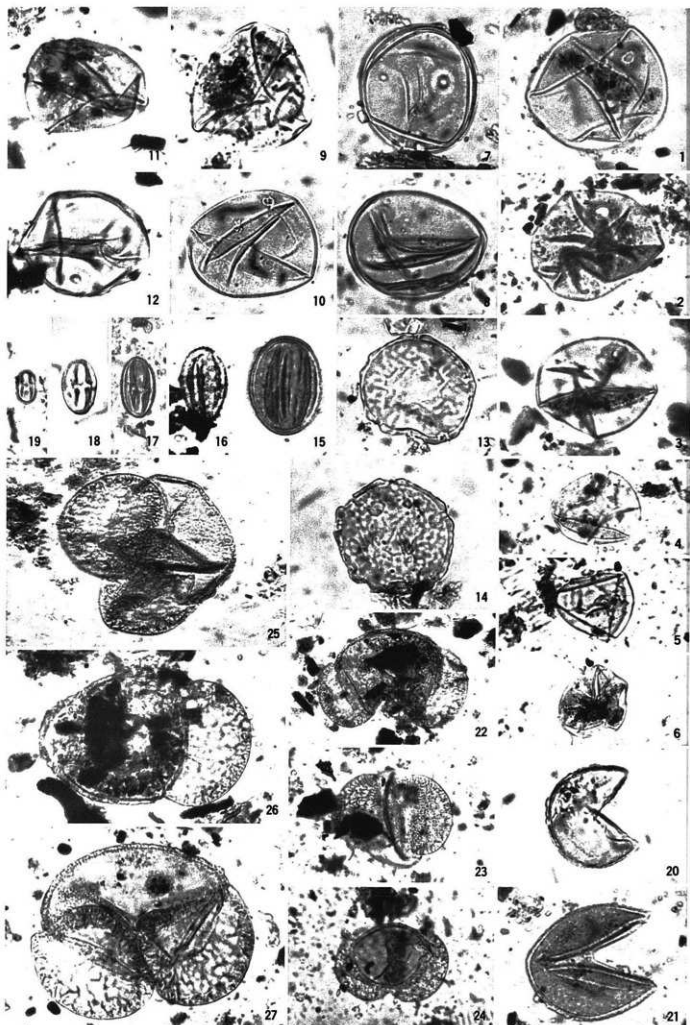
5 IKB WK 444

PL. 26	1	IKB	WK	358
	2	IKB	WK	391
	3	IKB	WK	286- 2
	4	IKB	WK	286- 1
	5	IKB	WK	181- 1
	6	IKB	WK	180- 1
	7	IKB	WK	181- 2
	8	IKB	WK	212
	9	IKB	WK	224
	10	IKB	WK	308
	11	IKB	WK	280- 1
	12	IKB	WK	216- 2
	13	IKB	WK	277
	14	IKB	WK	216- 1
	15	IKB	WK	186
	16	IKB	WK	192-35
	17	IKB	WK	175-13
	18	IKB	WK	166-35
	19	IKB	WK	166-10
	20	IKB	WK	166- 5
	21	IKB	WK	166- 1
	22	IKB	WK	181-25
	23	IKB	WK	181-17
	24	IKB	WK	181- 4
	25	IKB	WK	181- 2
	26	IKB	WK	291- 1
	27	IKB	WK	286- 1



PL. 27	1	IKB	WK	229- 4
	2	IKB	WK	383-33
	3	IKB	WK	118-23
	4	IKB	WK	118-12
	5	IKB	WK	118- 1
	6	IKB	WK	229- 7
	7	IKB	WK	383-53
	8	IKB	WK	381-95
	9	IKB	WK	383-18
	10	IKB	WK	383-11
	11	IKB	WK	381-94
	12	IKB	WK	181-48
	13	IKB	WK	181-40
	14	IKB	WK	181-33
	15	IKB	WK	181-34
	16	IKB	WK	181-36
	17	IKB	WK	386- 5
	18	IKB	WK	233-29
	19	IKB	WK	166-20
	20	IKB	WK	181-49
	21	IKB	WK	233-40
	22	IKB	WK	233-22
	23	IKB	WK	233- 1
	24	IKB	WK	233-58
	25	IKB	WK	333-57
	26	IKB	WK	233-55
	27	IKB	WK	233-53
	28	IKB	WK	233-51
	29	IKB	WK	233-17
	30	IKB	WK	233- 4





1~12	イネ科	13-14	ケヤキ属	15	コナラ属	16	ヤナギ属	1:500
17-18	シイ属	19	クリ属	20-21	スギ属	22~24	マツ属	
						25~27	モミ属	



1 カヤ(IKB W20-005) C-30x



2 カヤ(IKB W20-005) R-150x



3 カヤ(IKB W20-005) T-50x



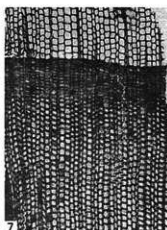
4 カヤ(IKB W30-100) C-30x



5 カヤ(IKB W30-100) R-150x



6 カヤ(IKB W30-100) T-50x



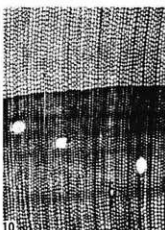
7 モミ(YoC W35-004) C-30x



8 モミ(YoC W35-004) R-200x



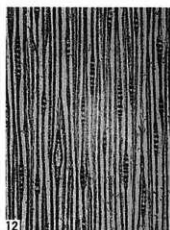
9 モミ(YoC W35-009) T-50x



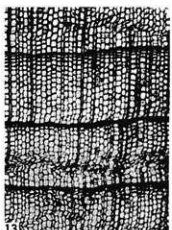
10 マツ(YoC W31-023) C-30x



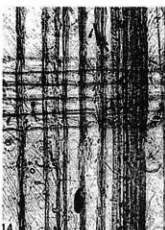
11 マツ(YoC W31-023) R-100x



12 マツ(YoC W31-023) T-50x



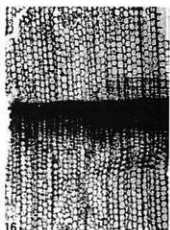
13 コウヤマキ(YoC W08-001) C-30x



14 コウヤマキ(YoC W08-001) R-150x

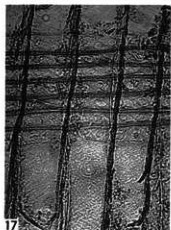


15 コウヤマキ(YoC W08-001) T-50x



16 スギ(YoC W30-017) C-30x

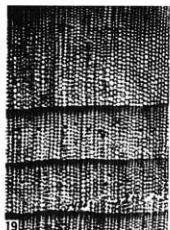
注) C 木口面 R 年目面 T 板目面



17 スギ(Yoc W30-017) R-200x



18 スギ(Yoc W30-017) T-50x



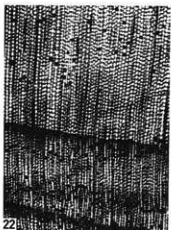
19 ヒノキ(IKB W30-110) C-30x



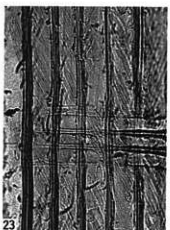
20 ヒノキ(IKB W30-110) R-200x



21 ヒノキ(IKB W30-110) T-50x



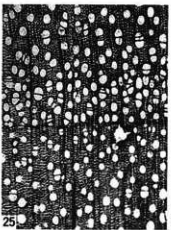
22 ヒノキ(IKB W33-045) C-30x



23 ヒノキ(IKB W33-045) R-200x



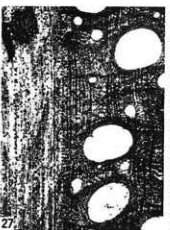
24 ヒノキ(IKB W33-045) T-50x



25 ヤナギ(IKB W38-006) C-30x



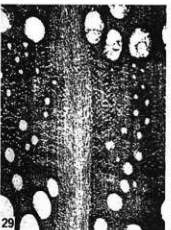
26 ヤナギ(IKB W38-006) T-50x



27 クスナギ(Yoc W30-014) C-30x



28 クスナギ(Yoc W30-14) T-50x



29 クスナギ(Yoc W31-015) C-30x



30 クスナギ(Yoc W31-015) R-100x



31 クスナギ(Yoc W31-015) T-50x

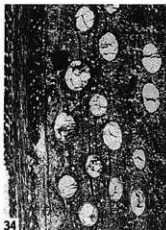


32 コナク(IKB W31-030) C-30x





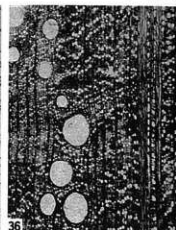
33 コナラ (IKB W31-030) T-20x



34 カシ (IKB W01-052) C-30x



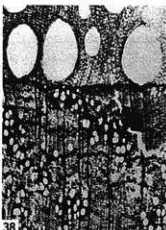
35 カシ (IKB W01-052) T-50x



36 カシ (IKB W01-072-J) C-30x



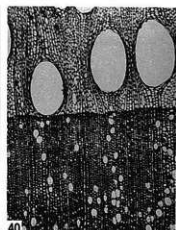
37 カシ (IKB W01-072-J) T-50x



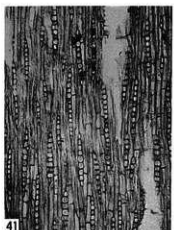
38 クリ (IKB W13-024) C-30x



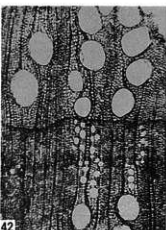
39 クリ (IKB W13-024) T-50x



40 クリ (YoC W15-001) C-30x



41 クリ (YoC W15-001) T-50x



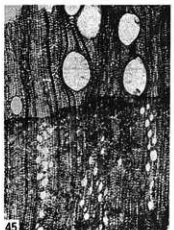
42 シノノキ (IKB W01-042) C-30x



43 シノノキ (IKB W01-042) R-150x



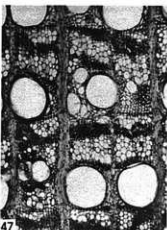
44 シノノキ (IKB W01-042) T-50x



45 シノノキ (IKB W30-046) C-30x



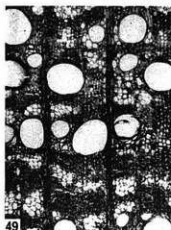
46 シノノキ (IKB W30-046) T-50x



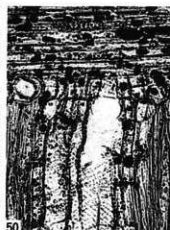
47 ケヤキ (IKB W01-017) C-30x



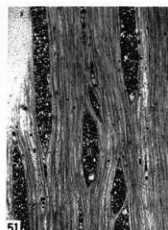
48 ケヤキ (IKB W01-017) T-50x



49 ケヤキ (IKB W14-003) C-30x



50 ケヤキ (IKB W14-003) R-150x



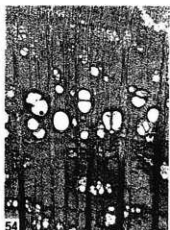
51 ケヤキ (IKB W14-003) T-50x



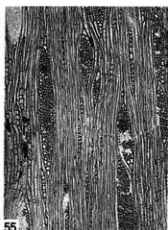
52 エノキ (IKB W33-012) C-30x



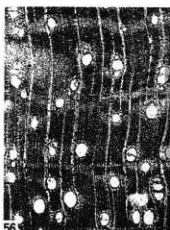
53 エノキ (IKB W33-012) T-50x



54 エノキ (IKB W38-087D) C-30x



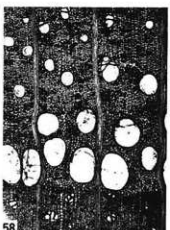
55 エノキ (IKB W38-087D) T-50x



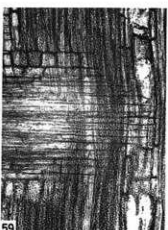
56 ムクノキ (IKB W38-096D) C-30x



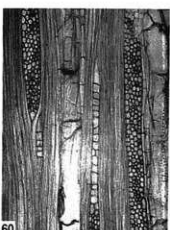
57 ムクノキ (IKB W38-096D) T-50x



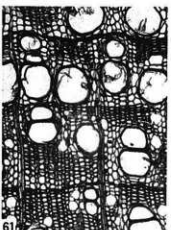
58 クワ (IKB W13-029) C-30x



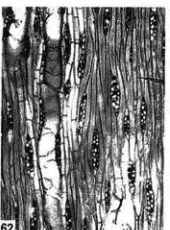
59 クワ (IKB W13-029) R-100x



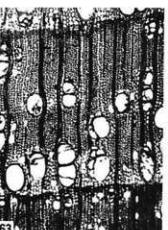
60 クワ (IKB W13-029) T-50x



61 クスノキ (IKB W16-002) C-30x



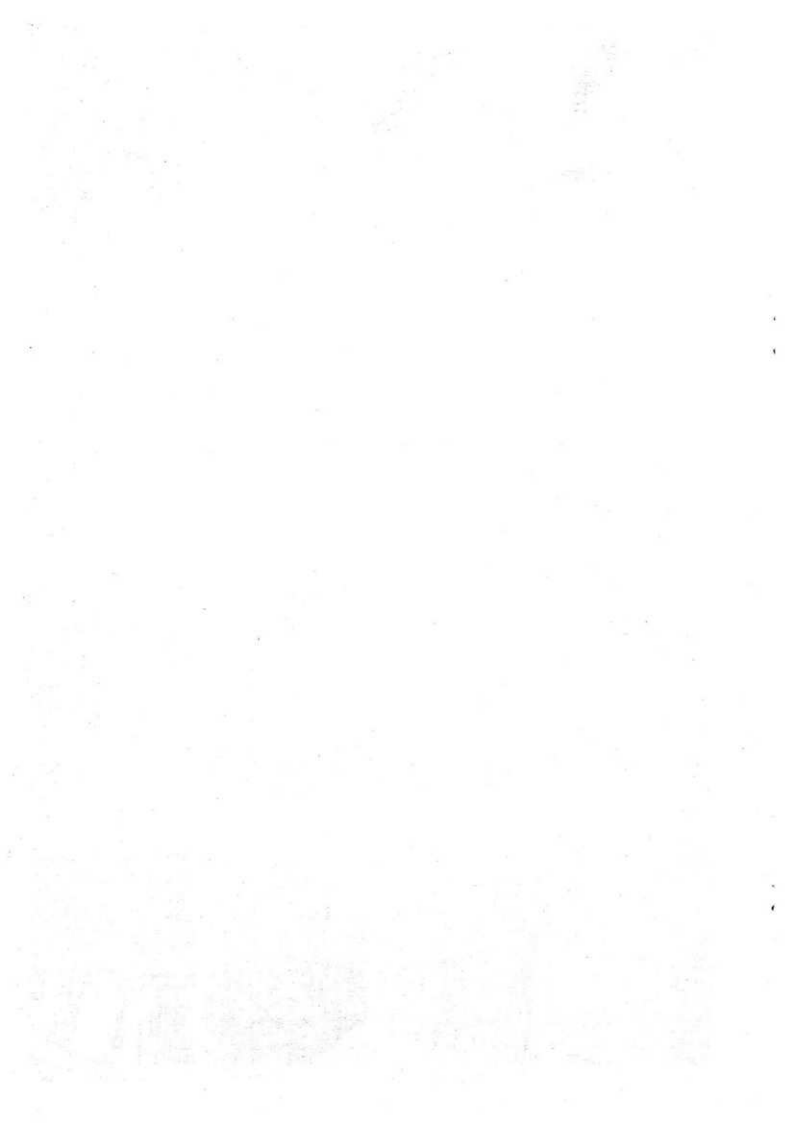
62 クスノキ (IKB W16-002) T-50x

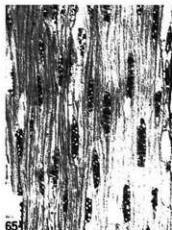


63 クスノキ (IKB W12-018) C-30x



64 クスノキ (IKB W12-018) R-100x





65 クスノキ (IKB W12-018) T-50x



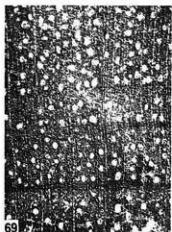
66 タブノキ (YeC W38-007) C-30x



67 タブノキ (YeC W38-007) R-100x



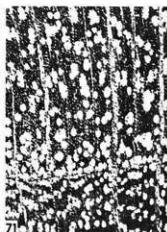
68 タブノキ (YeC W38-007) C-50x



69 アカメモチ (IKB W05-002) C-50x



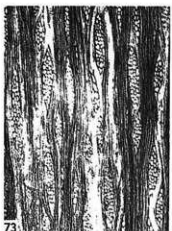
70 アカメモチ (IKB W05-002) T-50x



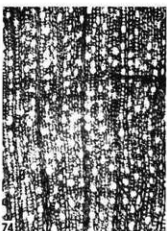
71 サガラ (IKB W33-001) C-30x



72 サガラ (IKB W33-001) R-100x



73 サガラ (IKB W33-001) T-50x



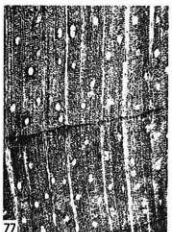
74 スズリハ (IKB W09-009-腹部) C-50x



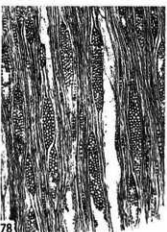
75 スズリハ (IKB W09-009-腹部) R-150x



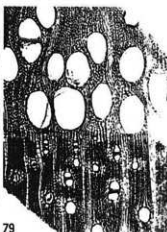
76 スズリハ (IKB W09-009-腹部) T-50x



77 カエネ (IKB W38-087) C-30x



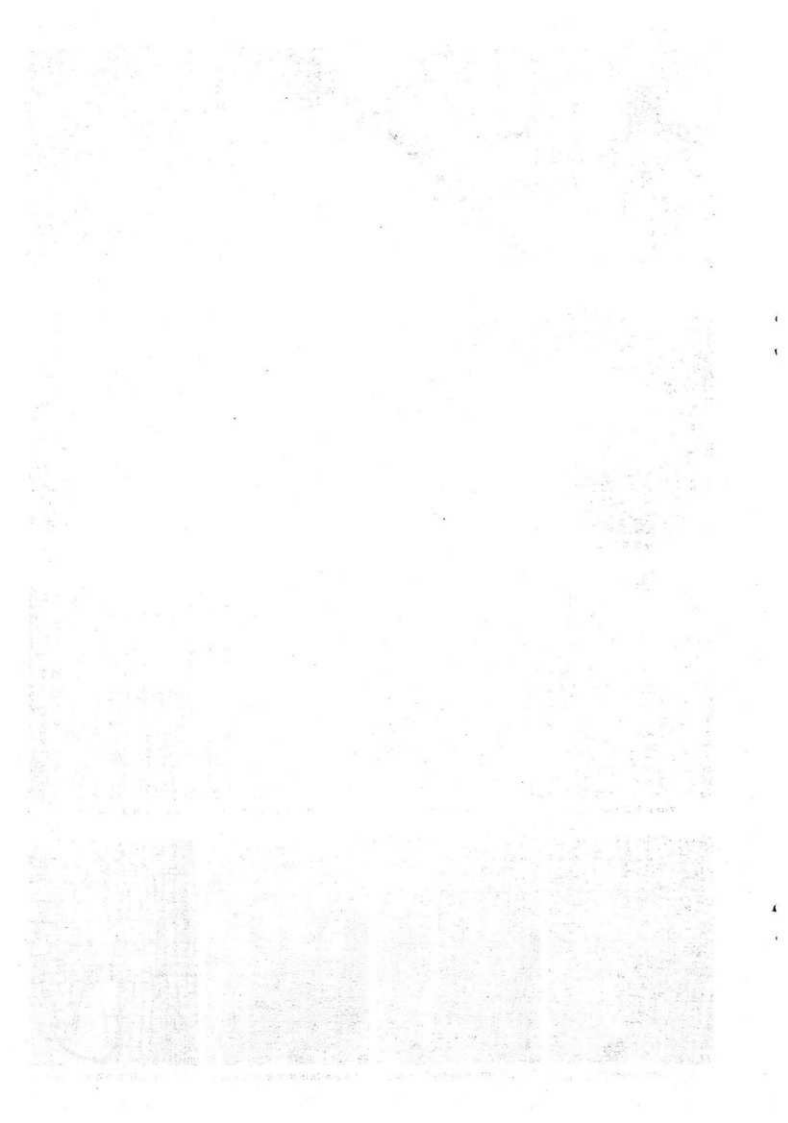
78 カエネ (IKB W38-087) T-50x



79 ケンボナシ (IKB W16-001) C-30x

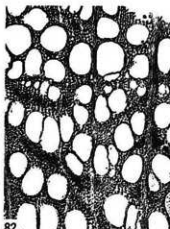


80 ケンボナシ (IKB W16-001) R-100x





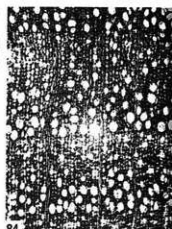
81 ケンボナシ (IKB W16-001) T-50x



82 アオギリ (YoC W30-057) C-30x



83 アオギリ (YoC W30-057) T-50x



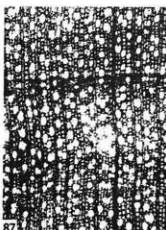
84 ヤブフバキ (IKB W31-017) C-50x



85 ヤブフバキ (IKB W31-017) R-100x



86 ヤブフバキ (IKB W31-017) T-50x



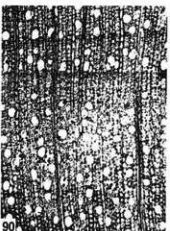
87 サカキ (IKB W09-049) C-50x



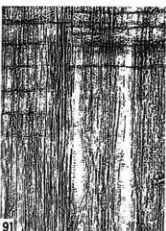
88 サカキ (IKB W09-049) R-200x



89 サカキ (IKB W09-049) T-50x



90 サカキ? (IKB W24-027) C-50x



91 サカキ? (IKB W24-027) R-100x



92 サカキ? (IKB W24-027) T-50x



93 ヤブザデ (IKB W09-018) C-30x



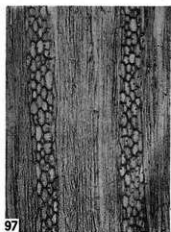
94 ヤブザデ (IKB W09-018) T-50x



95 アオイ (IKB W24-028) C-50x

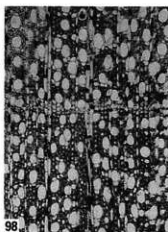


96 アオイ (IKB W32-028) R-100x



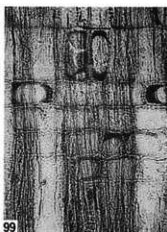
97

アオキ (IKB W32-028) T-50x



98

リョウブ (IKB W33-053) C-50x



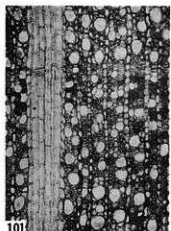
99

リョウブ (IKB W33-053) R-100x



100

リョウブ (IKB W33-053) T-50x



101

シャシャンボ (IKB W31-001) C-30x



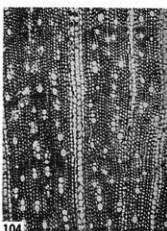
102

シャシャンボ (IKB W31-001) R-100x



103

シャシャンボ (IKB W31-001) T-50x



104

タイミンタンuki (IKB W09-034) C-50x



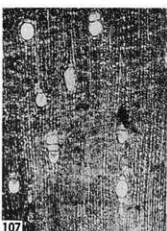
105

タイミンタンuki (IKB W09-034) R-100x



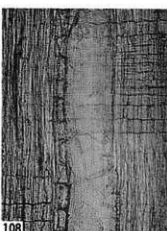
106

タイミンタンuki (IKB W09-034) T-50x



107

カキ (IKB W01-072-柄) C-30x



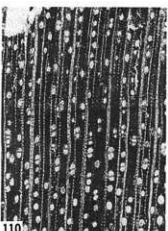
108

カキ (IKB W01-072-柄) R-100x



109

カキ (IKB W01-072-柄) T-50x



110

不明 (IKB W35-010) C-30x



111

不明 (IKB W35-010) R-150x



112

不明 (IKB W35-010) T-50x

池上遺跡・四ツ池遺跡発掘調査報告書
第 6 分冊
自然遺物編

発行日 昭和55年1月10日
発 行 財団法人 大阪文化財センター
住 所 大阪市城東区蒲生2丁目10番28号
〒538 大阪府城東庁舎内
☎ (06) 834-6651
印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

